

相模原市立博物館開館 30 周年記念企画展 「相模原市立博物館 30 年の歩みを未来へ」の開催記録

眞壁 ゆい*・嶋本 習介*

* 相模原市立博物館

1. はじめに

相模原市立博物館は平成 7 (1995) 年 11 月 20 日に地域の総合博物館として誕生し、令和 7 年をもって開館 30 年を迎えた。このため、令和 7 年度は様々な周年記念事業が企画・立案され、その一環として令和 7 年 7 月 12 日 (土) ~ 9 月 28 日 (日) に開催された企画展が「相模原市立博物館 30 年の歩みを未来へ」(以下、「30 年の歩み」展とする) である。ここでは、「30 年の歩み」展の開催結果について報告する。

2. 展示目的

前述のとおり、「30 年の歩み」展は当館が開館 30 周年を迎えたことにちなみ、開催されたものである。したがって、当館が歩んだ歴史を振り返り、これまでの博物館活動や収蔵資料等を紹介することで、当館の取組みを広く伝え、相模原市の自然や歴史、文化に対する理解を深める場とすることを主要な目的とした。また、将来に向けて、郷土の宝である博物館資料を後世へ継承し、地域の学びの拠点としての役割を訴求するとともに、利用者の関心や愛着を醸成する機会の提供を目指した。

展示タイトルに冠した「30 年の歩みを未来へ」は、開館 30 周年のキャッチコピーでもある。企画展を通じ、当館の過去や現在だけでなく、未来についても考える内容となるよう企図した。

3. 展示構成及び内容

「30 年の歩み」展は、一部会期が「第 10 回 わお! な生きものフォトコンテスト写真展」と同時開催であったことから、当該企画展と会場の特別展示室を二分し、さらにその中で次の 4 部構成とした。

- (1) 博物館のこれまで
- (2) 博物館の収蔵資料
- (3) 博物館の役割
- (4) 博物館の今とこれから

各コーナーレイアウトは図 1 及び図 5、会場の様子は図 2 のとおりである。それぞれのコーナーに対してオレンジ、緑、ピンク、青のコーナーカラーを設定し、コー

ナーの区切りを明確化した。配色に際しては、カラーユニバーサルデザインの考え方に基づき、色覚異常による障害の有無に関わらず識別し易いよう考慮した。

本企画展における展示資料一覧は後掲する表 1 のとおりで、総点数 115 件 503 点であった。



図 1 各コーナーレイアウト 「30 年の歩み」展チラシ裏面より抜粋

(1) 博物館のこれまで (図 2-I)

略年表及び入館者数によって当館の歩みを振り返った。平成 22 年度に年間入館者数歴代最多を達成したことや、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入館者数の大幅減など、当館の歴史を語るうえで特徴的な出来事については強調して取り上げた。また、米軍のキャンプ淵野辺返還後の跡地利用に関連深い開館に至るまでの経緯については、建設段階から竣工当初までの写真パネルと合わせて紹介した。

(2) 博物館の収蔵資料 (図 2-II-V)

各分野担当学芸員による資料選定のもと、当館における全 6 分野の収蔵資料を展示した。当該コーナーづくりにあたっては、当館が地域の総合博物館であることを活かした分野横断的な展示とすることと、資料のボリュームを重視する方針とした。このほか、所管施設、外部保管庫を含む昨年度末時点の収蔵資料点数に関する数値的な紹介を盛り込んだ。

(3) 博物館の役割 (図 2-VI-VIII・X)

「収集保存」「調査研究」「展示教育普及」の各活動

について、それぞれ人文系と自然系の専門分野における例を紹介した。分野ごとの割り当ては次のとおり。

- ① 収集保存（生物・民俗）
- ② 調査研究（地質、歴史）
- ③ 展示教育普及（天文・考古）

そのほかに、これまでの企画展、刊行物、勤務するスタッフやボランティア団体に関する展示を行うことで、博物館の役割を多角的に理解できるようにした。刊行物については、実際に手に取って閲覧できるスペースを設けた。

(4) 博物館の今とこれから (図 2-IX-X)

当館の現状と課題についてのパネル展示を行った。展示資料がないため、写真パネルを作成・配置することで、淡々とした印象を極力与えないように留意した。最後に、これからの博物館に期待することを来場者から募るメッセージボードを配置した。また、開館からこれまでの博物館の風景を写真展形式で展示した。

4. 関連イベント

関連イベントとして、展示担当学芸員による展示解説を3回（令和7年7月12日（土）午後2時～午後2時30分、7月21日（月・祝）午前11時～午前11時30分・午後2時～午後2時30分）、博物館バックヤードツアーを4回（8月2日（土）午前11時30分～正午・午後2時30分～午後3時、8月15日（金）午前10時30分～11時・正午～午後0時30分）実施した。

(1) 展示解説 (図 3)

解説役の学芸員が引率しながら順路に沿って会場を回り、展示制作の裏話なども交えつつ展示解説を行った。参加者は博物館そのものに関心のある大人と、たまたま来館していた家族連れに大別された。一部の参加者からは、後日実施した(2)のバックヤードツアーにもぜひ参加したいという声が寄せられ、実際に参加いただいた。全3回で延べ44人が参加した。

(2) 博物館バックヤードツアー (図 4)

過去に実施した当該事業の運用方法を踏襲する形で、通常は利用者による立ち入りを制限している収蔵庫を含めたエリアの見学を30分程度で行う内容とした。当初は8月2日（土）の2回のみのお予定であったが、受付開始早々に各回20人の定員を超過する希望者が殺到する想定外の事態となった。このため、受付方法や事業内容の見直しを図ったうえで、急遽8月15日（金）の2回を追加し、全4回で延べ74人が参加した。

参加者の中には、以前にも参加したことがあり、今回は家族を連れてきたというリピーターも存在し、前述の定員超過も踏まえてバックヤードツアーに対する注目度の高さがうかがえた。博物館側としても、館の意義や活動について普及するうえで格好のイベントであり、今後も積極的に実施することが望まれる。一方で、従来の運用ではこうした需要に対応しきれないことが浮き彫りとなり、継続してブラッシュアップしていく必要がある。

5. まとめ

約2か月半、実日数68日間の会期で、「30年の歩み」展は34,146人の来場者を迎えた。会場内に設置したアンケートは234件の回答を得ており、回答者の年齢は6～12歳が突出して多く53.6%で、それ以外の年齢層はいずれも1割未満だった。回答者の約7割が家族と観覧しており、夏休み期間かつプラネタリウムのリニューアルオープンと重なったことで、小学生を含む家族連れの観覧率が高かったものと考えられる。また、回答者の3割が初めて来館したと回答した一方、約4割が5回以上来館したことのあるリピーターだった。本企画展を知った情報源についてはチラシが約3割で最も多く、次いでポスターとインターネット等がそれぞれ2割弱続いた。紙媒体の広報効果が根強いともいえるが、インターネット上での広報により力を入れる必要が示唆された。関心を持った内容や資料について、74.1%が「ある」と回答した。展示内容については84%が「良い」と回答し、「悪い」は2.4%であったことから、好評だったと考えられる。自由記載欄に多数のコメントが寄せられ、企画展に直接関係する内容のほか、博物館全体に対するものも多く見られた。これは、当館の活動を紹介した本企画展だからこそ得られたものであり、今後の博物館運営においても重要な意見といえる。さらに、「(4) 博物館の今とこれから」のコーナーで募集したメッセージは1,092件にのぼり、これらにも当館に期待することなどが多数寄せられていた。

「30年の歩み」展では、開館以降30年間にわたって積み重ねてきた取組みを紹介するとともに、博物館の裏側など普段は意識されづらい部分も広く公開したことから、来場者の関心や興味を引くうえで相応の効果があったと考える。今回寄せられた多様な意見や感想は、利用者とともに当館が迎える次の10年、そしてその先の未来を考えていくにあたり、重要な指針となるだろう。





図2 会場の様子 I: 「(1) 博物館のこれまで」コーナーから展示導入部 II: 「(2) 博物館の収蔵資料」コーナー導入部 III: 「(2) 博物館の収蔵資料」コーナー民俗分野(左)と生物分野の一部(右) IV: 「(2) 博物館の収蔵資料」コーナー考古分野(手前)と地質分野の一部(奥) V: 「(2) 博物館の収蔵資料」コーナー天文分野 VI-VIII: 「(3) 博物館の役割」コーナー IX: 「(4) 博物館の今とこれから」コーナー X: 「(3) 博物館の役割」コーナーから「(4) 博物館の今とこれから」コーナー



図3 関連イベント (1) 展示解説の様子 (7月21日(月) 実施回) I: 「(1) 博物館のこれまで」コーナーの解説 II: 「(2) 博物館の収蔵資料」コーナーの神輿の解説



図4 関連イベント (2) 博物館バックヤードツアーの様子 I: 大型資料収蔵庫の見学 (8月2日(土) 実施回) II: 生活資料収蔵庫の見学 (8月15日(金) 実施回)

表1 「相模原市立博物館 30年の歩みを未来へ」展示資料一覧

No.	写真パネル	資料名	所蔵者	年代	数量
1	●	建設前の当館敷地の風景	当館所蔵	平成5(1993)年頃	1
2	●	建設中の当館敷地の風景	当館所蔵	平成6(1994)年	1
3	●	工事完了後まもなくの当館	当館所蔵	平成7(1995)年	1
4	●	尾崎行雄の肖像写真	当館所蔵	年代未詳	1
5		『尾崎行雄全集』(全10巻)	当館所蔵	大正15(1926)年7月10日～ 昭和2(1927)年7月10日	10
6		『演繹推理學』	当館所蔵	明治15(1882)年8月	1
7		『公會演説法 全』	当館所蔵	明治10(1877)年10月16日	1
8		『再版 尚武論 全』	当館所蔵	明治20(1887)年10月	1
9		『人生の本舞台』	当館所蔵	昭和21(1946)年7月5日	1
10		『琴堂回顧録』(上巻)	当館所蔵	昭和26(1951)年11月15日	1
11		『琴堂回顧録』(下巻)	当館所蔵	昭和27(1952)年3月5日	1
12		『再版 退去日録』	当館所蔵	明治21(1888)年4月17日	1
13		『琴堂自傳』	当館所蔵	昭和22(1947)年8月20日	1
14	●	写真(アンバサダーホテルの庭)	当館所蔵	昭和25(1950)年6月20日	1
15		絵葉書「是は先年私が東京市長として贈りたる三千本の桜にて今は当府の一大名物となり居候」	当館所蔵	1931年11月10日	1
16		絵葉書(東京市長として自分が贈ったワシントン市ボトマック河畔の葉桜の下に立つ琴堂)	当館所蔵	年代未詳	1
17		尾崎行雄 筆 掛軸(吊飯田三郎君)	当館所蔵	明治33(1900)年頃	1
18		尾崎行雄 筆 掛軸「伝家宝刀托何處」	当館所蔵	年代未詳(明治45(1912)年以降)	1
19		尾崎行雄 筆 掛軸「善悪の標準」	当館所蔵	年代未詳(昭和22(1947)年以降)	1
20	●	写真(善悪乃標準の碑)	当館所蔵	令和5(2023)年12月26日撮影	1
21		尾崎行雄 筆 扁額「天空」	当館所蔵	年代未詳(明治20(1887)年以降)	1
22		尾崎行雄 筆 掛軸「獨行不愧影 独寝不愧衾」	当館所蔵	年代未詳(明治45(1912)年以降)	1
23		尾崎行雄 筆 色紙「異跡同心 双鶴永棲 千年樹」	当館所蔵	昭和20年代前半	1
24		ゴム印(尾崎行雄)	当館所蔵	年代未詳	1
25		表札(尾崎行雄/風雲閣)	当館所蔵	年代未詳(昭和2(1927)年以降)	1
26	●	尾崎行雄の肖像写真(風雲閣にて)	当館所蔵	昭和18(1943)年	1
27		メガネ	当館所蔵	年代未詳	5
28	●	写真(メガネ姿で浜辺を歩く尾崎)	当館所蔵	年代未詳(昭和17(1942)年以降)	1
29		神輿	当館所蔵	明治9(1987)年	1
30		ニホンイノシシ本剥製	当館所蔵	-	1
31		ホンダヌキ本剥製	当館所蔵	-	1
32		ニホンジカ本剥製	当館所蔵	-	1
33		トビ本剥製	当館所蔵	-	1
34		アオサギ本剥製	当館所蔵	-	1
35		ゴイサギ本剥製	当館所蔵	-	1
36		オオタカ本剥製	当館所蔵	-	1
37		ハンフトガラス本剥製	当館所蔵	-	1
38		ハンフトガラス交連骨格標本	当館所蔵	-	1
39		アオバト本剥製	当館所蔵	-	1
40		オオルリ本剥製	当館所蔵	-	1
41		ホンダヌキ交連骨格標本	当館所蔵	-	1
42		ニホンリス本剥製	当館所蔵	-	1
43		セグロアジサシ本剥製	当館所蔵	-	1
44		鳥類仮剥製キャビネット	当館所蔵	-	1
45		石刃・ナイフ形石器	当館所蔵	-	38
46		石槍	当館所蔵	-	28
47		縄文土器	当館所蔵	-	6
48		土師器	当館所蔵	-	7
49		土師器・須恵器	当館所蔵	-	8
50		岩石標本	当館所蔵	-	3
51		化石標本	当館所蔵	-	3
52		砂標本	当館所蔵	-	3
53		テフラ(火山灰)標本	当館所蔵	-	3
54		御岳第1軽石剥ぎ取り標本	当館所蔵	約9万5千年前	1
55		ボーリングコア	当館所蔵	-	5
56		小惑星探査機「はやぶさ2」模型(1/10)	当館所蔵	-	1
57		小惑星リュウグウから採取されたサンプル(C0002)のレプリカ	当館所蔵	-	2

58		工学実験衛星「ひてん」カメラ(プロトタイプモデル)	当館所蔵	-	1
59		昆虫標本ダンス	当館所蔵	-	1
60		ドイツ箱(甲虫類未分類)	当館所蔵	-	4
61		ドイツ箱(チョウ類)	当館所蔵	-	1
62		ドイツ箱(ハネカクシ類)	当館所蔵	-	1
63		ジーナスカパー(ドウリョウイノデ)	当館所蔵	-	3
64		桐生亮標本(カワラノギク)	当館所蔵	-	1
65		牧野標本(カワラナデシコ)	当館所蔵	-	1
66		番田神代神楽の道具(一部)	当館所蔵	-	4
67		資料カード	当館所蔵	-	2
68	●	整理作業の様子	当館所蔵	-	6
69	●	収蔵庫の様子(写真)	当館所蔵	-	4
70		ヘルメット	当館所蔵	-	1
71		三角ホー	当館所蔵	-	1
72		安全靴	当館所蔵	-	1
73		長靴	当館所蔵	-	1
74		ねじり鎌	当館所蔵	-	1
75		タガネ小	当館所蔵	-	2
76		タガネ大	当館所蔵	-	2
77		軍手	当館所蔵	-	1
78		ハンマー	当館所蔵	-	4
79		ハンマー(玄能)	当館所蔵	-	1
80		クリノメーター	当館所蔵	-	1
81		野外調査用地形図	当館所蔵	-	1
82		室内作業用地形図	当館所蔵	-	1
83		地質図	当館所蔵	-	1
84		フィールドノート	当館所蔵	-	1
85		偏光顕微鏡	当館所蔵	-	1
86		岩石薄片	当館所蔵	-	10
87		岩石薄片整理箱	当館所蔵	-	3
88		中性紙箱	当館所蔵	-	1
89		中性紙箱(新聞用)	当館所蔵	-	1
90		中性紙箱(小)	当館所蔵	-	1
91		薄葉紙	当館所蔵	-	2
92		デスクトレイ	当館所蔵	-	1
93		くずし字辞典	当館所蔵 一部、学芸員私物	-	2
94		中性紙封筒	当館所蔵	-	10
95		『博物館所蔵古文書目録』	当館所蔵	平成17(2005)年3月31日	1
96	●	『相模原市立博物館 研究報告第33集』(一部)	当館所蔵	令和7(2025)年3月31日	1
97		ナイフ形石器	当館所蔵	-	1
98		石槍	当館所蔵	-	1
99		縄文土器	当館所蔵	-	1
100		寄贈資料 土器	当館所蔵	5,000~4,700年前	55
101		寄贈資料 石器	当館所蔵	5,000~4,700年前	16
102		復元製作の石器	学芸員私物	令和5~7(2023~2025)年	72
103		コルキツスピカ(口径4cm屈折望遠鏡)	当館所蔵	-	1
104		タカハシ10cm屈折望遠鏡(FS-102)	当館所蔵	-	1
105		タカハシ赤道儀(EM-10)	当館所蔵	-	1
106		光学式投映機「GSS-HELIOS」恒星球本体	当館所蔵	-	1
107		光学式投映機「GSS-HELIOS」月投映機	当館所蔵	-	1
108		光学式投映機「GSS-HELIOS」操作卓(一部)	当館所蔵	-	1
109	●	光学式投映機「GSS-HELIOS」が映した星空(タペストリー)	当館所蔵	-	1
110		図録	当館所蔵	-	26
111		目録	当館所蔵	-	13
112		研究報告	当館所蔵	-	27
113	●	写真(職員・スタッフ・ボランティア)	当館所蔵	-	23
114	●	写真(プラネタリウム・収蔵庫など)	当館所蔵	-	9
115	●	写真(今昔写真展)	当館所蔵	-	4

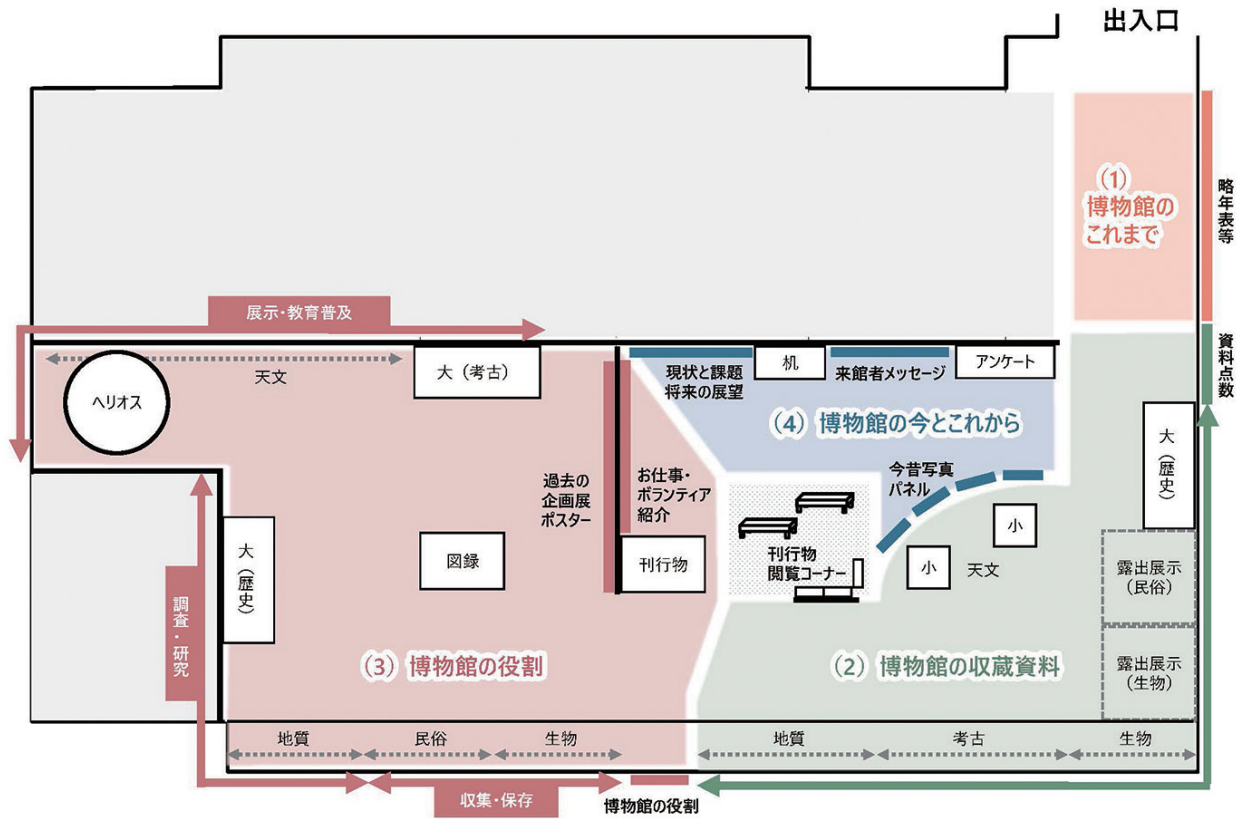


図5 会場レイアウト 大：大型展示ケース；小：小型展示ケース。図録及び刊行物は覗き展示台を使用。破線及び各専門分野の略称は各分野の担当範囲を示す。